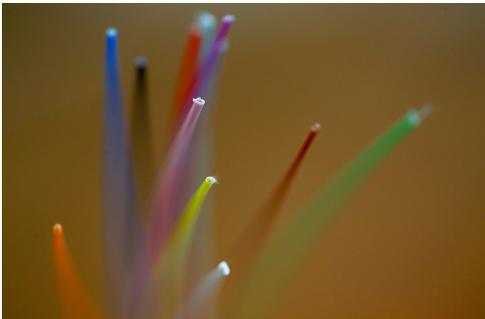


欧州と日本を結ぶ北極圏データケーブル 最初の投資を獲得



北極圏を横断する初の光ファイバーケーブルの建設計画が、最初の投資を確保した。11億ユーロ（11億5000万ドル）の計画推進コンソーシアムが発表した。開発者によると、北極圏の海底に敷設されるのはこの海底ケーブルが初めてで、世界のインターネットインフラの一部として、北米を經由してヨーロッパと日本を結ぶことになるという。

記事参照：Arctic data cable linking Europe to Japan secures first investment - ArcticToday (2022.12.2/Arctic Today)



ロシア議会、北方海路の航行の自由を制限する法律を可決

ロシアは北極海路の航行を完全にコントロールできると主張できるのか、それとも国連海洋法条約（UNCLOS）に基づく航行の自由に関する法律は、領海内の海峡を基線とする無害通航権を認めるか。11月30日、ロシア連邦議会（上院）は、同国が主張する「内水面」での外国軍艦の権利を直ちに停止する法律を承認し、この問題が再び争点となっている。外国軍艦は、ヨーロッパとアジアの間にあるシベリア沿岸以北を航行する3カ月前に、外交ルートを通じてロシアに通知することが義務づけられた。新法により、同航路を通過する外国軍艦やその他の政府船舶の通行を速やかに停止することが可能になった。

記事参照：Russian parliament passes law limiting freedom of navigation along Northern Sea Route - ArcticToday (2022.12.2/Arctic Today)

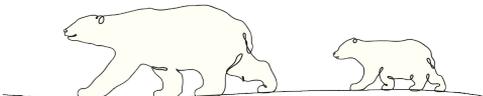
←A fiber optical cable is seen without sheath in a storage area in Perugia, Italy on June 23, 2017. (Alessandro Bianchi / Reuters)

アラスカ州の村々 気候変動の脅威を考慮し、 連邦移転助成金対象に決定 その進展は？



米内務省は、侵食、洪水、永久凍土の融解によって損なわれた不安定な場所にあるユピック村のニュートクとナパキアク、および洪水の脅威にさらされているワシントン州のクイノーインディアンネイションの部族政府が、それぞれ移住プロジェクトに2500万ドルを獲得することを発表した。さらに、他の8つの部族政府（うち4つはアラスカ州）には、移住やその他の気候変動に対する回復力を高めるための計画として、それぞれ500万ドルの補助金が授与された。助成対象に選ばれたアラスカのコミュニティは、州内で最も危機に瀕しているコミュニティの一つ。ニングリック川沿いのニュートクは年間約70フィートの土地が浸食で失われ、クスコクウィム川のナパキアクは年間25～50フィート失われている。

記事参照：Alaska villages chosen for federal relocation grants were singled out for climate-change threats — and progress - ArcticToday (2022.12.5/Arctic Today)



ベーリング海とチュクチ海の 海底 重要な生物種にとって 暖かくなりすぎる可能性



米国海洋大気庁の科学者が率いる新しい研究によると、ベーリング海とチュクチ海の海底には、ムール貝、カタツムリ、アサリ、ミミズ、その他の冷水性無脊椎動物にとって危険が潜んでいるとのことである。気候変動がそのまま進行すれば、今世紀末にはベーリング海とチュクチ海の海底はこれらの生物にとって暖かくなりすぎるだろう。

記事参照：The bottom of the Bering and Chukchi seas could become too warm for some important species - ArcticToday (2022.12.1/Arctic Today)

TotalEnergiesはロシアの Yamal LNGに留まると 関係者は語る



フランスの石油大手トタルエナジーズは、ロシアのノバテックへの出資分37億ドルの評価減を決定したが、今のところヤマルLNGプロジェクトから撤退することはないと、関係者が述べた。ヤマルLNGはロシアの北極圏で液化天然ガスを生産している。

記事参照：TotalEnergies stays in Russia's Yamal LNG, source says - ArcticToday (2022.12.9/Arctic Today)

カナダの和解協議会法案は イヌイトと協議されたもの ではなかった ITK会長が発言



Inuit Tapiriit KanatamiのNatan Obed会長は、和解のための国家評議会を設立する連邦法案はイヌイトと協議されたものではなく、彼の組織が承認するものでもないと述べた。法案C-29は下院で全会一致で可決され、現在は上院の手に委ねられている。この法案は、先住民族との和解を進めるために、「独立した、非政治的な、恒久的な、先住民族主導の組織」である国家和解評議会を創設する、と法案の本文には記されている。

記事参照：Canada's reconciliation council bill was not 'co-developed' with Inuit, ITK president says - ArcticToday (2022.12.6/Arctic Today)

ヤクーチアの企業 中国への 輸出を増加



2022年のヤクーチアの対外貿易は、前年比28%以上増加した。また、輸出は31%以上増加した。中国とのビジネス関係は最も速いペースで増加した。中国とのビジネス関係は最も速いペースで伸びている。

記事参照：Yakutia's enterprises have increased exports to China (arctic.ru) (2022.12.9/the Arctic)

寒冷前線の影響で一晩中雪に 覆われるアンカレッジ



全米気象局は、アンカレッジ地域に火曜日午後3時から水曜日午後4時までの冬期気象予報を発令している。また、天気予報士は、雪と気温が下がるにつれて、夕方と朝の通勤時に滑りやすい道路状況を計画するようにドライバーに警告している。

記事参照：Cold front set to bring Anchorage a chilly overnight snow dump - Alaska Public Media (2022.12.6/Alaska Public Media)

アルハンゲリスク州、2023年 の社会事業に9億1700万ルー ブルを得る



ロシア北西部のアルハンゲリスク州は、2023年に4つの社会的プロジェクトを実施するために、連邦予算から9億1700万ルーブルの単独補助を受けることとなった。州知事のアレクサンドル・ツィブルスキー氏は自身のテレグラムチャンネルで、「"北極圏開発国家委員会"の会合で、いくつかのプロジェクトが一度に承認された。医療施設や子どもたちのための課外教育センター、地域改善プロジェクトなどをさらに充実させることができるだろう。2023年のプロジェクト資金の総額は9億1700万ルーブルである」と述べた。

記事参照：Arkhangelsk Region to get another 917 million rubles for social projects in 2023 (arctic.ru) (2022.12.7/the Arctic)

ロシアのガスプロム社、北極圏の新ガス田で生産を開始



ロシアのガスプロム社は、ロシア北極圏のセマコフスコエガス田で生産を開始し、ガスは国の供給システムに送り込まれると発表した。ガスプロム社によると、プロジェクトの第一段階では年間75億立方メートルの生産量になるという。

記事参照：Russia's Gazprom launches production at new Arctic gas site - ArcticToday (2022.12.6/Arctic Today)

ムルマンスク経由の北極圏原油がインドに向かう



今週初め、欧州連合（EU）によるロシアの石油制裁が発動され、コラ湾のターミナルに積み込まれた巨大タンカーは新たな市場を探すことを余儀なくされている。ブルームバーグ社によると、モスクワのウクライナへの軍事攻撃以前は、1日に約120万バレルの石油がEUの港に送られていたという。現在では、インド、中国、トルコがロシア産原油の最大の買い手となっている。

記事参照：More Russian Arctic oil via Murmansk redirects to India | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2022.12.8/The Barents Observer)

北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。Vol.18は、2022年12月前半のニュースを掲載しています。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

